

報道関係各位
プレスリリース

一般社団法人
NCA 日本地域情報振興協会
Nippon Community Contents Association

日本地域情報コンテンツ大賞2023 授賞式



名称 日本地域情報コンテンツ大賞2023
後援 内閣府／経済産業省／農林水産省／観光庁／公益社団法人日本観光振興協会
特別協賛 シヤチハタ株式会社
協賛 総合商研株式会社／JITAN BODY
協力 日本地域メディアネットワーク
主催 一般社団法人日本地域情報振興協会
公式サイト <http://award.nicoanet.jp/>

□開催概要



主催：一般社団法人日本地域情報振興協会 [NiCoA]
Nippon Community Contents Association

開催主旨：地方創生が全国的に課題となり、各地で様々な取り組みが展開されています。このような中で、地域密着型メディアの存在は増々重要となって参りました。本アワードを通じて、地域密着型メディアの実績や活動、地域経済活性化に貢献している存在価値を広く知らしめること、そして発行元媒体社の制作意欲を鼓舞し、より一層充実した取材活動を促進していくことで地域の魅力再発見、地方創生に貢献する。

エントリー資格：有料無料を問わず、国内外で地域情報、コミュニティ情報を定期的に発行する紙媒体及び紙媒体発行会社のWeb・動画。自治体関連の紙媒体・WEB・動画

開始年（今年の開催回数）：2011年（第13回開催）

エントリー期間：2023年7月1日～9月30日

総エントリー数 509媒体
審査部門エントリー 147媒体
特別出展部門エントリー 362媒体
※審査員部門
(紙89誌／WEB28件／動画30件)

エントリー媒体数の推移



読者投票期間

2023年10月1日～10月31日

授賞式（ハイブリッド式）

2023年11月28日（火）

□後援

日本全国で発行される地域密着型メディアが取材し、発掘する地域情報とは、他には類のないディープな観光情報であったり、地域の特産物のPR、地域への観光客の誘客や地域で活躍する人材の育成等、地域経済活性化に寄与している点が評価され、内閣府、経済産業省、農林水産省、観光庁の後援を頂戴しています。同様に、観光業界への貢献の面から日本観光振興協会様の後援をいただいています。

内閣府 第7回開催から7年連続／内閣府地方創生推進事務局長賞は第7回開催から設定
経済産業省 第1回開催から13年連続
農林水産省 第4回開催から10年連続
観光庁 第3回開催から11年連続／観光庁長官賞は第6回開催から設定
公益社団法人日本観光振興協会 第3回開催から11年連続

□ 審査員 ※順不同

雑誌編集の専門家はもちろん、映像制作・演出、マーケティング、観光業界の専門家に審査員を委嘱。

- | | |
|------------------|--|
| 遠藤 翼（エンドウ ツバサ）氏 | 観光庁 観光地域振興部 観光資源課
文化・歴史資源活用推進室 室長 |
| 大辻 統（オオツジ オサム）氏 | 内閣府地方創生推進事務局 総括参事官 |
| 隈 研吾（クマ ケンゴ）氏 | 建築家 東京大学特別教授・名誉教授 |
| 坂井 滋和（サカイ シゲカズ）氏 | 早稲田大学 名誉教授
2001年～2022年まで早稲田大学にてデジタル映像関連分野での
研究・教育に従事。日本初の商用CGアニメーション制作システムの開発を
担当し、CGクリエイターとして活躍。 |
| 富川 淳子（トミカワ アツコ）氏 | 日本出版学会会長
跡見学園女子大学 文学部 現代文化表現学科 教授
「雑誌は時代の鏡」という視点に立ち、社会の動きや他の文化、価値観を
通して女性誌、ファッション誌の歴史や現代の特徴を研究。 |
| 村上 旭（ムラカミ アキラ）氏 | 公益社団法人日本観光振興協会
総務・渉外部門 総務担当部長 兼 広報担当部長 |
| 古川 一郎（フルカワ イチロウ） | 一般社団法人日本地域情報振興協会 副理事長
武蔵野大学 経営学部 学部長 教授
一橋大学名誉教授
日本マーケティング学会 フェロー、「日本マーケティング大賞」の選考
委員も務める。 |
| 藤丸 順子（フジマル ジュンコ） | 一般社団法人日本地域情報振興協会 専務理事 |

□ 表彰部門

- 地方創生部門（内閣府地方創生推進事務局長賞）
- 観光部門（観光庁長官賞）
- 有料誌部門
- ビジネスモデル部門
- 新創刊部門
- 地域コミュニティ部門
- WEB部門
- 動画部門
- 読者投票部門
- MIE（Magazine In Education）部門
- 審査員特別賞

『35MAGAZINE』 / 株式会社35design (北海道)



北海道で光を放つヒト・モノ・コトに注目をし、編集する事をコンセプトにした本誌。今回のテーマは「熊」。今年は都市部に現れ、人に被害を与えてる事件がニュース等で注目されている。

さまざまな角度から熊との関係を築き上げてきた、北海道という地域ならではの視点で、熊という大きな存在を見つめ直した力作である。地元に着した丁寧な取材を基にして、多種多様なイラスト、写真等を活用した見て楽しく、読んで深く、遊び心に溢れるコンテンツの数々。

審査員全員が満場一致で大賞に選んだ大作である。



日本地域情報コンテンツ大賞2023

内閣府地方創生推進事務局長賞

事務局長 審査評

地方創生は、人口減少が進む中で、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある地域社会・日本社会を維持することを目指しています。

「デジタル田園都市国家構想」は、デジタルの力も活用して地方創生を加速化・深化する新たな地方創生のビジョンです。

それぞれの地域において、地域の豊かな自然や歴史、文化・伝統・産業などの魅力をしっかりと発信していくことが、住民一人ひとりの地域への誇りと愛着の醸成や、地方への人の流れの創出に不可欠であり、地方創生・デジタル田園都市国家構想の実現につながっていきます。

そういった点で、エントリー作品はいずれも地域の魅力を深掘りし、地域への愛情を持って情報を発信する素晴らしい作品揃いでした。

内閣府地方創生推進事務局長 市川 篤志

■地方創生部門（内閣府地方創生推進事務局長賞）



内閣府地方創生推進事務局長賞(自治体)

『美唄市 美唄シティプロモーション推進事業

PAINTING OUR DREAMS OF BIBAI CONCEPT BOOK 1.0』

／ 美唄市（北海道）



「美唄市 美唄シティプロモーション推進事業 PAINTING OUR DREAMS OF BIBAI CONCEPT BOOK 1.0」は、北海道美唄市の未来を担う若者が人口減少や少子高齢化などが深刻化していく2040年を見据えて、若者の視点で地域の魅力を探求し、地域の「新しいシンボル」を制作する過程を丁寧に伝えてくれるものでした。

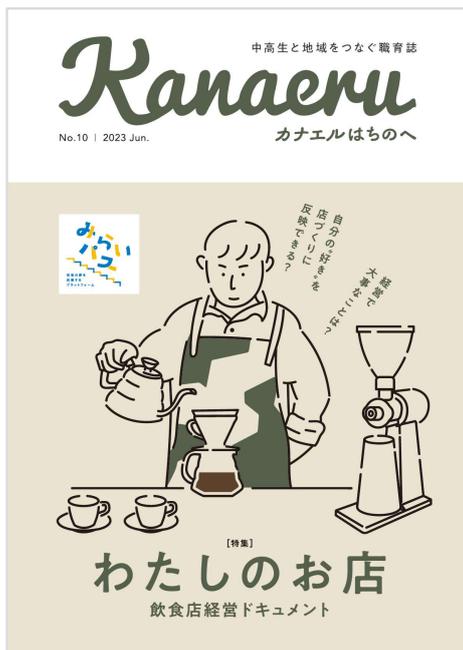
この過程を通じ、地域の歴史、現在、そして目指したい未来について、親しみやすい文章表現と鮮やかな写真を用いて、明瞭かつ簡潔に表現されていました。

本誌は、地元住民のシビックプライドを醸成するだけでなく、地域の魅力を地域外の人々に発信できるものとなっている点を高く評価しました。

内閣府地方創生推進事務局長 市川 篤志評

内閣府地方創生推進事務局長賞(民間)

『カナエルはちのへ』／株式会社デーリー東北新聞社（青森県）



「カナエルはちのへ」は、若者のキャリア教育支援の観点から、青森県八戸圏域の企業・団体、そこで働く人々の紹介を通して、地元企業や社員の方々の魅力を発信しています。特に地域で働く人々の日常や思いを伝えるインタビュー企画では、中高生と年齢が近い若手社員へ丹念な取材を行っており、本誌は、まさに「若者と企業をつなぐ」一冊といえるものでした。

本誌は、「地元企業の良さ」や「若手社員の頑張り」をわかりやすく発信しており、青森県八戸圏域内での若者のキャリア形成をサポートするとともに、地域経済を支える地元企業の人材確保にも資するものである点を高く評価しています。全国各地において、地域の魅力を活かした持続的なまちづくりや地域活性化に向けた取組を進めるに当たり、その地域に住み続けたい、訪れたいと思わせる情報発信を通じて、今後も、地域密着型メディアが地方創生の重要な役割を担うことを期待しています。

内閣府地方創生推進事務局長 市川 篤志評

■地方創生部門（内閣府地方創生推進事務局長賞）



□地方創生部門 優秀賞（民間）

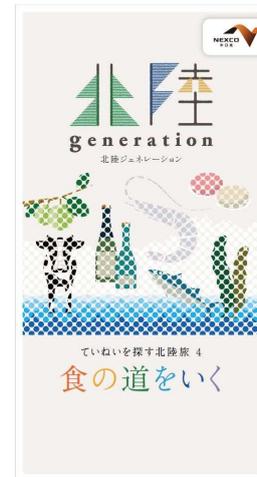


『季刊誌 楽 (5-k)』
株式会社イズワークス
(長崎県)

長崎の歴史の奥深さや自然の美しさ、そして海外との交流の中で築かれた独自の文化や営みを発信する事を目的に、2008年に本誌を創刊。

「美しき平戸 雷の潮を越えて」の特集では長崎県北部、激しい潮流から雷にたとえられる平戸瀬戸を越えた先に位置する日本初の西洋貿易が行われた平戸を丁寧に取材。

制作は長崎で活躍するクリエイターがチームを組んでいるだけあり、写真、デザイン、コピーライツなどいずれも高く、そのクオリティを評価した。



『北陸ジェネレーション』
中日本高速道路株式会社 金沢支社
(石川県)

北陸地方の各産業（農林水産業、伝統工芸、地場産業など）で活躍する人々、他の地域からの移住者やUターン者に焦点を当て、北陸地方を動かし、次世代を担う『北陸ジェネレーター』をインタビュー形式で紹介。

北陸地方の産地・産業の活性化による定住人口の維持・移住の促進に寄与し、地域の関係人口の増加を担うことで、地域創生に貢献している点を高く評価した。富山県・石川県・福井県で活躍する「食」の作り手、送り手、使い手の物語は読み応え十分。

□地方創生部門 優秀賞（自治体）



『TOYAMA ジャーナル』
富山県議会
(富山県)

富山県民に、富山県議会の役割や議員の活動への理解・関心を持ってもらう事を目的に毎回工夫を凝らして、読みやすく親しみやすい編集を心掛けている点を評価。

冊子版・デジタル版で発行され、県内すべての高校生に配布しているほか、議員が県内高校へ直接出向く「出前講座」で活用するなど、他の県議会にも参考にして欲しいと審査員から熱いメッセージがあった。

毎年、パワーアップされており、来年の参加に期待したい。

■観光部門（観光庁長官賞）



観光庁長官賞

『Club Concierge Luxury Japan』

／一般社団法人ラグジュアリージャパン観光推進機構（東京都）



政府においては、本年3月、新しい「観光立国推進基本計画」を策定いたしました。その中では、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取り組むこととしています。

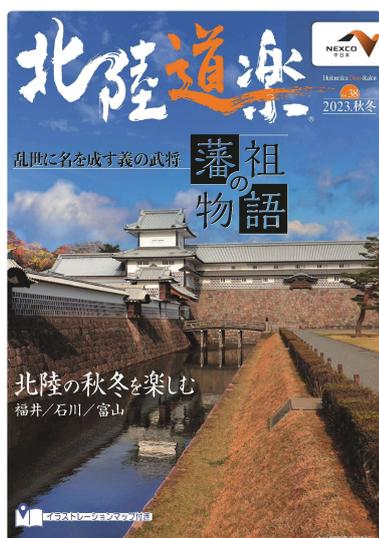
「Club Concierge Luxury Japan」では、海外の高付加価値旅行者を日本に誘客することを目的として、一般社団法人ラグジュアリージャパン観光推進機構を設立し、ラグジュアリージャパンアワードを主催することで、宿泊施設や観光地等に海外向けに発信している点、さらには宿泊やアクティビティの予約ができる点を評価しました。

また、事業者・自治体等を対象にラグジュアリーツーリズムに特化した商談の機会を提供している点も評価しました。観光庁としても、より高付加価値な商品造成は、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復どちらの観点からも大切な取組だと考えております。

今後も日本各地において、このような素晴らしい取組が行われ、観光振興による地域活性化に繋がることを期待しています。

国土交通省 観光庁 評

□観光部門 優秀賞



北陸三県の見どころを網羅したイラストレーションマップをはじめ、北陸の旬の話題を取り上げる特集記事や、サービスエリア・パーキングエリア情報など、ドライブに便利な内容が盛りだくさんで車での旅行者には便利な冊子である点を評価。日本三名山に挙げられる「立山」と「白山」の霊山をはじめとした北陸の夏山の特集は読み応えがある。NEXCO中日本管内のサービスエリアや、北陸を含む各地域の道の駅などで配布されているフリーペーパーである。

『北陸道楽ガイドブック』
中日本高速道路株式会社
金沢支社
(石川県)

■ ビジネスモデル部門



最優秀賞

『Fのさかなおもしろ図鑑』 / 石川印刷株式会社（石川県）



日本海に突き出た能登半島の暮らしは、海の恵みである「さかな」と共に成り立ってきた。そんな能登半島からさかな文化を全国に発信するフリーマガジン「Fのさかな」。

毎号読者からの反響が多いというさかなに関する特集コンテンツを、丸ごと図鑑にしたのが「Fのさかなおもしろ図鑑」だ。読者からの要望で生まれた本誌は会社の通販サイトや地元の水族館、ミュージアム等で有料販売している。地元密着型のフリーマガジンの新たなビジネスモデルとして高く評価した。

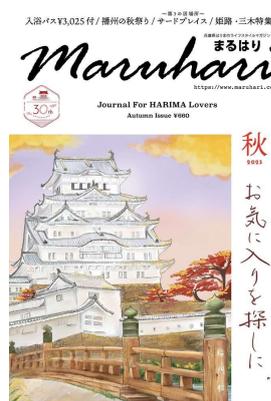
■ ビジネスモデル部門

優秀賞



『クイック・ガーデニング通信』
株式会社クイック・ガーデニング
(東京都)

「庭木1本のお手入れから、規定料金で作業」という新しいスタイルの植木屋として、話題の株式会社クイック・ガーデニング。植木職人の「とっつきにくい」というイメージを払拭し、「気軽にご相談いただく関係性の構築」を目的として、発行するコミュニケーション誌。植木業界で初めて、ネットで見積もりが取れて、明朗会系というビジネスモデルも素晴らしいが、日本各地の顧客約5万3000人にこの媒体を郵送し、顧客との絆を深めている取り組みを評価した。



『まるはり』
YBS株式会社
(兵庫県)

東は阪神から西は岡山までの書店で販売しているタウン情報誌。広域エリアの取材は大変だろうが、クオリティの高い写真での店舗や観光スポット紹介記事は、さすが有料誌だと評価。本誌を660円で購入すると、まるはり入浴パスというコーナーで紹介している温泉や入浴施設の利用料が、総額3,025円もお得になる。この仕掛け、企画をビジネスモデル部門として評価した。



『Chai』
十勝毎日新聞社
(北海道)

北海道十勝で25年にわたり発行している地域に密着したフリーペーパー。毎月164ページを制作する事ができる組織力とエネルギーを高く評価。また、クロスメディアの取り組みが秀逸で、若い女性を集客したいビューティー業界のクライアントを紹介するサイトChaiビューティーに紙面のQRコードから集客する仕組みは、ビジネスモデルとして素晴らしい。今後もこのようなクロスメディアの取り組みに期待したい。



『無料情報誌NAINAI』
株式会社NAINAI
(熊本県)

人口約12万人が暮らす八代市。この地域に密着した無料情報誌として11年前に創刊。今では地域NO1の配布量を誇り、コンテンツは、街の様々な情報。高校生を紹介する定番コーナーのネットワークを活用して、街の課題解決に繋がるアイデアを高校生と一緒に行政に提案したり、八代の情報をマスメディアに定期的に発信するなど、誌面を超えた地域のメディアの取り組みを評価した。

■ ライフスタイル部門



□ ライフスタイル部門 最優秀賞



『CHIKUSUKI*』 株式会社トーン (福岡県)

かつて、炭鉱町として栄えた福岡県筑豊地方に平成元年に誕生した平成筑豊鉄道を地元ならではのメディアとして、丁寧に取材した大特集「へいちく」。

審査員一同、ボリュームある情報量に感服すると共に、特集に相応しいインパクトある表紙も高評価。様々な切り口で地元には欠かせない「へいちく」を紹介している。読み応えたっぷりの大特集である。表紙をみて、いち早くこの大特集を読みたいと思う読者のために、表紙をめくったあとの、ページネーションにひと工夫が欲しかった。

■ ライフスタイル部門



□ ライフスタイル部門 優秀賞



『浦安に住みたい！』
株式会社いしずえ
(千葉県)

今年創刊20年目を迎える浦安の地域・不動産情報誌。「浦安に住みたい！」というタイトル通り、読者がこの地域の魅力に気づき、ファンになってくれるよう、グルメ情報や新しくオープンしたお店の紹介記事などがメインコンテンツである。このような地元密着のフリーペーパーがある事は、そこに住む人たちのコミュニケーションがより楽しくなり、地域が元気になると評価した。



『SNOW HEAVEN』
SNOW HEAVEN実行委員会
(新潟県)

「世界一楽しい会社を創る」を企業理念として、新潟でFM放送、インターネット放送に取り組む会社が発行するフリーペーパー。スキー・スノーボード人口の大幅減少や地球温暖化による雪不足など、様々な問題がスキー場の経営を圧迫している昨今、雪国でもある新潟でスノーカルチャーとスキー場の文化を今後も楽しめるとの企画。新潟県内を中心に近隣のスキー場まで、個性豊かなゲレンデの特徴とカルチャーを紹介する事でウィンタースポーツの活性化に貢献している。この企画で、地域課題解決にチャレンジしている点を評価した。



『ピースなじかん』
ファジー・アド・オフィス
(埼玉県)

埼玉の子育てファミリーの知的好奇心を刺激する地域密着型フリー・マガジン。埼玉の子どもたちの郷土愛が育まれ、地域の魅力が未来へ継承されることを目的に発行。運営する総合住宅展示場を活用したランドセル展示即売会やファミリーイベントなど、単なる媒体だけではなく、企業と地域、子育てファミリーを結ぶさまざまな取り組みを実施している点も高く評価した。この地域の子育てファミリーにとって、なくてはならないメディアに成長して欲しい。



『ハンケイ5m』
株式会社union.a
(京都府)

「ハンケイ5メートル」のテーマは、「手をのばせば、すぐふれられる。そんな世界を知るマガジン」。自分自身の身近なところ、半径5mの中こそ、多様な世界が広がっているという、尖った切り口の企画力を評価した。障害の有無や性別に縛られることなく、自分らしく人生に挑戦する彼ら彼女らを丁寧に取材し、多様性あふれる物語として紹介。個性溢れる人にフォーカスする事で、読者に自らの人生を見直すきっかけを提供する地域情報誌としては稀有な存在。今後の展開に期待する。

■ ライフスタイル部門



□ ライフスタイル部門 優秀賞



『カナエルはちのへ』
株式会社デーリー東北新聞社
(青森県)

中学生・高校生にとって、みずからの職業感や人生観を考えるきっかけになる、ライフスタイルの提案媒体である。その編集コンセプトがはっきりしている点を高く評価した。この年代が親しみを持って読みやすいように、活用したイラストやデザインのクオリティも高い。この媒体がこの地域の人手不足解消の働きかけのひとつになる事を期待する。

■タブロイド部門

最優秀賞

『The Weekly Press Net』

／株式会社プレスネット（広島県）



本媒体が発行される東広島エリアは、広島県内有数の米どころという事で、さまざまな切り口で米をテーマにした特集「エンジョイ 米生活」。丁寧な取材で深掘りしたコンテンツを、地元ラジオ局のFM東広島とのコラボや、自社のwebサイト「東広島デジタル」とのクロスメディアで展開するなどの、チャレンジ的な取り組みに、審査員満場一致で最優秀賞に決定した。

大量なコンテンツを継続して制作できる、企業としてのノウハウ、安定感も素晴らしい。

□タブロイド部門 優秀賞



『ものづくり新聞』
株式会社パブリカ
（東京都）

「あらゆる人がものづくりを通して好奇心と喜びでワクワクし続ける社会の実現」をビジョンに掲げた製造業向けメディア。ものづくりに携わる人々にフォーカスしながら、それぞれの人の想いを発信するという、時代に合った新鮮な企画力を高く評価した。

160本以上ものインタビュー記事をX(Twitter)/Facebook/Instagramなどのソーシャルメディアでも積極的に情報発信。今後の成長が楽しみな新しいメディアである。

■ 企業誌部門

最優秀賞

『EMO41』

／中日本高速道路株式会社 高山保全・サービスセンター（岐阜県）



ドライブ時の事故や交通トラブルを防ぐ目的で、奥飛騨・飛騨路を安全に旅するポイントを地域の魅力と共に伝えるフリーペーパー「EMO41」。2022年冬号では、壮大な北アルプスや白山を望むスキーリゾートを中心に取り上げている。さらに、地域と深く関わっている企業の社員の皆さんが自信を持ってお勧めする、隠れた温泉スポットも魅力的なコンテンツである。東海北陸道（E41）の利用者に奥美濃や飛騨を安全に楽しんでもらいたいという企業の熱意が伝わってくる点を高く評価した。

■ 企業誌部門

□ 企業誌部門 優秀賞



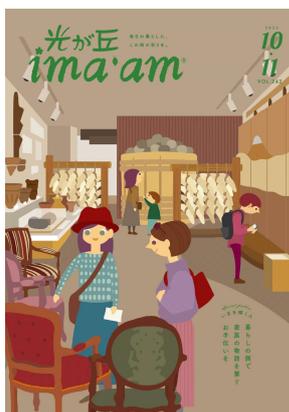
『人宿町人情通りマガジン』
株式会社創造舎
(静岡県)

静岡市にある旧東海道沿いの府中宿「人宿町」。昔ながらの街並みと新しい個性溢れる店が集う、人情溢れるコンパクトストリート「人宿町人情通り」を紹介したフリーマガジン。
日本有数の賑やかだったシネマ通りも、時の流れ中で老朽化し閉館が相次ぎ、商店街の賑わいが衰退しつつあったが、「OMACHI創造計画」がスタート。7年の歳月をかけ、約90店舗のディープで個性的な飲食店や物販店が誕生し、地域の祭りも復活。
この地域の再生に中心的立場で取り組み、各店舗への集客プロモーションに貢献する媒体だとして企業誌部門で評価した。



『新林』
日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社
(東京都)

2015年の会社創立10周年に合わせ社会貢献活動(CSR)として富士山での植樹活動を開始。2019年まで5年間実施。この体験から、木を伐ること、木を運ぶこと、山林をつくること、資源をつかうことをコンセプトに実体験で「企業」と「山林」の関わりにおける【無関心】を変えるきっかけしたいと、この媒体を発行。
建設事業を中心にしたマネジメント・コンサルファームとして、社会の課題解決に向けてメディアを活用した情報発信の取り組みを評価した。



『光が丘ima'am』
株式会社新都市ライフホールディングス
(東京都)

東京都練馬区の光が丘駅直結の商業施設「光が丘IMA」が発信する、フリーペーパー。
施設内の販売促進に繋がる情報にとどまらず、子育てに奮闘するお母さんを中心とした幅広い世代へ向けて、様々なイベントや、この地域ならではの魅力を深掘りして面白いコンテンツに仕上げている点を評価した。編集部お勧めの「いまを輝く人」は、練馬区で活躍する人にスポットを当て、丁寧に紹介。このようなコミュニティ誌が、街を活性化する存在になる事に期待する。



『こうぐり』
JA高知県
(高知県)

地域の特性を活かした農業を展開しているJA高知。この地域で活躍する農業者を、コンセプトである「土佐の高知のあぐりのチカラ」を軸に、広報誌を通じてもっと伝えたい、県内にもっと響かせたいと毎月7万部を発行。このアワードに毎年エントリーする当誌の編集レベルは、確実に上がっていると審査員の評価は高い。同名でInstagram、Facebookも展開中であるならば、東京という最大の消費地のどこで高知の野菜が購入できるのか、読者が購入したくなる情報を掲載して欲しいの声が審査員から上がった。



最優秀賞

『WELCOME BACK KUTCHAN NISEKO』

／一般社団法人 倶知安観光協会（北海道）



インバウンドマーケット向けの誘致動画として非常にクオリティが高い点を評価した。

自然に恵まれたニセコエリアを、見入ってしまう程の美しい映像で紹介し、動画全体の構成力も素晴らしい。

誘致を目的としたメッセージ性もしっかり表現出来ていて、申し分ない。

一点だけアドバイスするとすれば、登場人物が少し緊張している点。

外国人には、笑顔が受けるはずである(笑)

■ 動画部門



□ 動画部門 優秀賞



『くくるをめぐる - kukuruwomeguru』
白山文化博物館
(岐阜県)

岐阜県郡上市北部エリアの水に関する信仰である白山信仰。この地域ならではの白山信仰を映像で伝える事で、感動のある新たな旅の提案をしたいという、そのチャレンジを評価した。どのシーンの映像もクオリティが高く美しく、構成力もいい。多言語でのテロップを入れたら、インバウンドマーケットにも対応できる。配信チャンネルをYouTubeに限定する場合は、もう少し明るめの画像処理をお勧めする。



『うとびより』
宇土市役所
(熊本県)

熊本県のほぼ中央部、有明海と八代海(不知火海)を二分する宇土半島のほぼ北半分を占めているのが宇土市。有明海は干満の差が激しく、潮が引いた海岸の砂地には、風と波による美しい砂の曲線が現れる御輿来海岸(おこしきかいがん)は、日本の「渚百選」「日本の夕陽百選」に選定されている。この魅力ある観光スポットを美しい映像で紹介し、その動画だけではなくwebサイト、観光パンフレットとクロスメディアでの発信力も評価。



『下郷町観光PR動画 春夏総集編』
下郷町
(福島県)

福島県会津地方の南部に位置し、周囲は那須山系などの山々に囲まれ、町のほぼ中央を阿賀川(大川)が貫流し、国指定天然記念物「塔のへつり」に代表される雄大な渓谷が形成されている。約87%は森林に覆われるという豊かな自然を美しい映像で紹介。残念なのは、この動画を見て感動しても、アクションが起こせない。観光の問い合わせなど、この動画内で宿の申し込みやイベント情報にアクセスできる等の仕組みが欲しい。



『みやき町景観計画紹介映像』
みやき町
(佐賀県)

佐賀県みやき町は北部九州の中央に位置しており、なだらかな丘陵地帯と田園地帯を流れる川が筑後川に注いでいる、筑紫平野の穀倉地帯の一部として重要な役割を担っているエリアである。この地域の四季折々の美しさや、地域資源を美しい映像としっかりした構成力で表現した尺の長いクオリティの高い動画である。この動画を環境映像や、動画から写真に活用して観光様に使用するなど、ワンコンテンツマルチユースの取り組みに、是非チャレンジして欲しい。

最優秀賞

『Just North of Tokyo～Saitama Tourism Support Desk』

／一般社団法人埼玉県物産観光協会（埼玉県）



インバウンドマーケット向けの観光サイトとして、あらゆる点で配慮されている点を高く評価した。サイトの訪問者が、埼玉県各地での観光シーンを楽しくイメージできるスポット紹介のコンテンツが充実しているだけではなく、交通機関、宿泊施設、旅行代理店、行政サイト、SNSへのリンクも完璧でプラットフォームとしての役割を充分理解した上での配慮にあふれた作り込みである。アクセスしたユーザーにとって、旅行する際の基本情報を得る事ができ、その動線もしっかりしていて分かりやすい。日本各地の観光協会等にも、是非参考にして欲しい。

■ 隈研吾 特別賞

最優秀賞



『新林』

日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社
(東京都)

昨今、わが国において木材の活用が叫ばれています。また、林業における危機についても、話題にのぼるようになりました。このような時代の流れの中で、プロダクトから自治体の政策まで、総合的に扱っている点が、非常に興味深いと感じました。消費量の多い建材について、深く掘り下げて取材をしたら面白いと思います。次回以降に期待します。

(隈研吾 談)



『地産地消文化情報誌「能登」』
能登編集部
(石川県)

2010年の創刊以来、季刊誌としてしっかりした編集内容で、継続的に発行されている点が素晴らしい。特集、連載記事ともにクオリティの高い内容で読み応え十分です。特に写真のクオリティは他媒体に比べて非常に高く、読者を惹きつけます。特集「能登に泊まろう！」は、読んだ人が能登に泊まりに行きたくなる内容で、観光的にもアピールできていると思います。

(隈研吾 談)

隈研吾 特別賞

優秀賞



『Fのさかなおもしろ図鑑』
石川印刷株式会社
(石川県)

日本海に突き出た能登半島の暮らしは、海の恵みである「さかな」と共に成り立ってきた。そんな能登半島からさかな文化を全国に発信するフリーマガジン「Fのさかな」。毎号読者からの反響が多いというさかなに関する特集コンテンツを、丸ごと図鑑にしたのが「Fのさかなおもしろ図鑑」だ。フリーペーパーのコンテンツをまとめて図鑑にするという取り組みが面白い。



『フリーペーパー飯山旅々』
一般社団法人 信州いいやま観光局
(長野県)

信州、飯山の旅の魅力を伝えるフリーペーパー。特集の「古民家の暮らし」では、長野県の最北に位置し、豪雪地帯である飯山に残る古民家の建物としての特徴を紹介。また、そこに新たな息吹を吹き込む人々も増えていて、それぞれの想いや取り組みでさらに魅力を増している古民家を丁寧に取材している。た。豪雪地帯の古民家を楽しみにこれからの季節に、旅に出るのも悪くないと思わせてくれるコンテンツである。



『人宿町人情通りマガジン』
株式会社創造舎
(静岡県)

静岡市にある旧東海道沿いの府中宿「人宿町」。昔ながらの街並みと新しい個性溢れる店が集う、人情溢れるコンパクトストリート「人宿町人情通り」を紹介したフリーマガジン。日本有数の賑やかだったシネマ通りも、時の流れ中で老朽化し閉館が相次ぎ、商店街の賑わいが衰退しつつあったが、「OMACHI創造計画」がスタート。7年の歳月をかけ、約90店舗のディープで個性的な飲食店や物販店が誕生し、地域の祭りも復活。この冊子と共に地域住民、行政、店主が共に取り組むまちづくりそのものを高く評価した。

審査員特別賞



『JAPANDIGEST WEB』

／Doitsu News Digest GmbH（海外）



日本とドイツ間の10,000キロという距離をより身近に感じてもらう為のクロスカルチャー誌として、2012年に創刊されたJAPANDIGEST。2016年にドイツ語による日本情報ポータルサイトを開設。このサイトは、ドイツ語での日本情報発信量として世界最大級であり、未だ知られていない日本の魅力や深みを、ドイツ語圏（主にドイツ、スイス、オーストリア）に発信している。日本のニュース、旅行、現代社会、伝統文化、モダンカルチャー、ドイツでの日本体験など、多岐にわたるトピックを毎日配信する。コンテンツの高い品質によって、アクセスするユーザーの多くが日本への関心を持つことが期待でき、日本旅行の計画をしやすいするための豊富なリンクも高く評価した。

優秀賞



『JA高知県公式ホームページ』
JA高知県
(高知県)

高知県の「食」と「農」を知るきっかけになるポータルサイトに育てていきたいとJA高知県が運営するサイト。農畜産物の紹介だけではなく、ブランド野菜、レシピ情報のほか、農家やJAの取組、食や農に関する動画まで、コンテンツも豊富。サイト訪問者との直接の接点となる県内各地の直販所の情報や、リンク先のJA高知が運営するネット販売サイトや農業求人サイトとも連携している点も評価。昨今注目されている食や農との出会いの場として活用される事に期待する。



『水と生命の源流域へ くくるをめぐる』
白山文化博物館
(岐阜県)

岐阜県郡上市北部エリアの白山信仰を中心とした食文化や施設、観光名所を掲載している観光と学びを目的に制作されたサイト。どのようにこの土地と出会い、風土を体験し、より付加価値の高い旅を提案できるかという観点で、象徴的な自然信仰のスポット情報の整備、行事レポートなどのコンテンツや、旅行に必要な観光情報へのリンク等、きめ細かく情報発信を行なっている。



『30歳になったら静岡県！・ふじのくにパスポート』
ロントラ株式会社
(静岡県)

静岡県出身者や移住検討者、首都圏在住の30歳前後の若者に向けたU I ターン就職促進や、高校を卒業して県外に進学する学生など、県外に転出する人とのつながり維持を目的としたサイト。SNS等の活用によるU I ターン潜在層への継続的なアプローチや、高校卒業生全員に地域の魅力を発信するウェブサイトのQRコードを記したカードを配布し、LINE、メルマガ登録を促進。随時様々な地元の情報をクロスメディアで発信する、プラットフォームとしての機能を高く評価した。中長期的な取り組みに期待する。



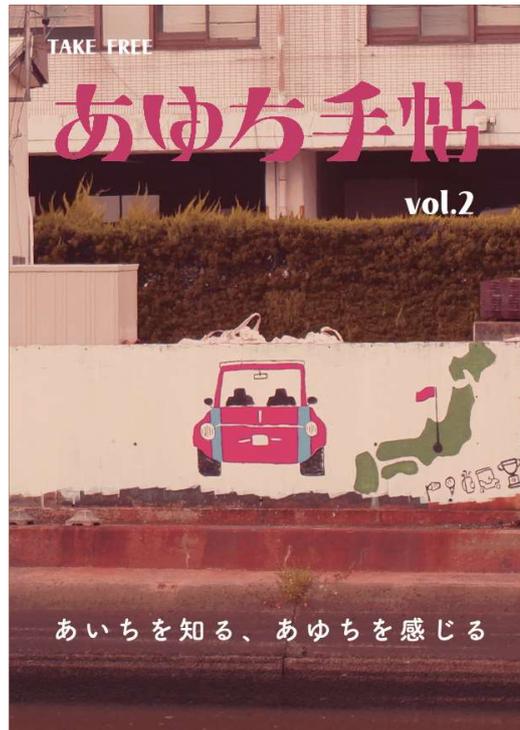
『東広島デジタル』
株式会社プレスネット
(広島県)

東広島市のニュース、グルメ、イベント情報、求人情報、不動産情報などを掲載している地域密着の情報サイト。開設3年目で年間で450万PV。LINE連動で約4,000人の市民が様々な企画に参加するアクティブなサイトである。コンテンツは、地元NO1のフリーペーパーであるプレスネット紙面との連動企画、YouTubeを活用した動画企画、紙面で紹介した店舗の詳細情報検索、紙面上に載せきれなかった記事の掲載などが盛り沢山。クロスメディアを積極的に推進して成功している実力ある地域webサイトとして高く評価。

最優秀賞

『あゆち手帖』

／名古屋造形大学（愛知県）



愛知(あいち)は名古屋市南区から熱田区辺りにあった入り海「あゆちがた」の「あゆち」に由来していると言われていた。愛知県の今昔を知って、感じるをコンセプトにして名古屋造形大学ソーシャル・クリエイションゼミの3年生6名が編集、発行。今年度から本アワードに新設された大学生が発行する媒体を対象としたこの部門は、「何を情報発信するのか」を評価の重要項目とした。特集の喫茶店、常滑焼、名古屋駅は、ノスタルチックなイメージで統一され、お店の紹介や駅の紹介は若い感性ならではの切り口で面白い。この部門において、企画、表現力ともに1番面白かった。QRコードの使い方も秀逸でサイトも充実している。紹介した料理や商品に金額の無い点や、ページ表記がない点を次号から修正して、益々充実したクリエイティブな媒体としての成長に期待する。

■ MIE (Magazine In Education) 部門



優秀賞



『link.』
Kitahama Lab
(香川県)

四国高松市の小さな港町・北浜町の魅力を伝えたいと地元の店を取材。新たな発見や情報を、あえて砕けた文章で親しみやすく、記憶に残るようにしたという、学生らしい柔軟な取り組みを評価。単なるお店紹介ではなく、お店に携わる方々のパーソナルな話題を盛り込む事で、北浜町の魅力が楽しく伝わってくる学生ならではのコピーライツも遊び心に溢れている。



『Yellow!』
学校法人千葉学 千葉商科大学
(千葉県)

千葉商科大学における授業「プロジェクト実践/メディア・プロジェクト」の一環として行っている活動で2017年から発行されている媒体のVol.7。コロナ禍でこの2年間は「note」を活用したweb媒体であったが、今年は紙媒体の制作経験者が居ない中で、手探り状態でのチャレンジ。だからこそ、全てのメンバーの個性が発揮できたという、大学生らしいコメントも評価した。Z世代の学生達の視点で捉えた新たな地域の魅力が、この街の活性化の役に立つ事に期待したい。



『Run Magazine』
Run
(東京都)

受験に悩んでいる高校生や、やりたいことが見つからず苦しんでいる大学生に対して、大学生の「今」を伝えることで、「こんな大学生もいるんだ!」「自分もやってみようかな!」と次の一步を踏み出す「行動のきっかけ」を創りたいと創刊。web媒体ではなく、紙だからこそ伝わるものがある。付箋を貼ったり、マーカーで線を引っ張って何度も見返したり愛着を持ってもらいたいというサークルの皆さんからの熱量あるコメントに、審査員も納得しました。



『nice!』
KADAI INFO
(鹿児島県)

「鹿児島大学生の自由研究」をテーマに編集。大学生ならではの自由研究を、各ページごとに違った視点からユニークに表現している。学内のデザイン部だけでなく、編集部や他の部門のメンバーも関わり、一丸となって進めるプロジェクトで進行。デザインや編集が初めてのメンバーも制作に携わり、メンバー同士の絆が深まり学生自らが成長するきっかけとなったという、エントリーのコメントも審査員一同、高く評価した。

■ 読者投票部門(紙媒体)



第1位 3,233 票

『たたらにまつわるエトセトラ Vol.3 出羽直綱～おおなん刀鍛冶の里編～』

おおなんたたららんど (島根県)



島根県の中央に位置する邑南町。この地域に伝わる文化や遺跡、古くから受け継がれてきた刀剣や刀の製法などを、広く内外に広めようと制作したフリーペーパー。町外から多くの関係人口の方に興味を持ってもらうことを目的に、郷土の歴史学者から学ぶ研修会を開催。その後、多くの人たちと一緒に共同編集ソフトCanvaを活用してこの媒体を制作したという。このようなプロセスの結果としてたくさんの人からの投票がありダントツの投票数で、この部門の1位を獲得。

■ 読者投票部門(紙媒体)



第2位 2,059票



『Concierge上海（コンシェルジュ上海）』
上海金鑰匙广告有限公司
（上海）

中国在住日本人とビジネス出張や旅行で訪れる日本人向けに中国初の日本語フリーマガジンとして発行。1995年に大連にて創刊し、現在は大連、上海にて発行している。読者アンケートでリクエストがあったものや、現地で求められているトピックスを毎月の巻頭特集にする、読者と共に編集するスタイルが読者に人気。その読者から熱い支持があるという。その読者に支えられ、見事この部門で2位の座に輝いた。

第3位 1,671票



『岩内サイクル新聞』
帰厚院
（北海道）

コロナ禍により自粛中の町民に町の魅力を再確認してもらいたいと発行した地域密着の媒体である。地元の高校生や町民・移住者など毎回協力者やテーマ(ハタチの主張・今昔物語・高校生の街歩き特集など)を変えての企画で、町内小中高校をはじめ、町内全6000世帯の半数を占める3000部を配布。地元住民の熱いファン投票で見事3位に輝いた。投票した人たちからの応援コメントが1番多かった媒体である。

第4位 1,543票



『ピースなじかん』
ファジー・アド・オフィス
（埼玉県）

埼玉の子育てファミリーの知的好奇心を刺激する地域密着型フリー・マガジン。埼玉の子どもたちの郷土愛が育まれ、地域の魅力が未来へ継承されることを目的に発行。運営する総合住宅展示場を活用したランドセル展示即売会やファミリーイベントなど、単なる媒体だけではなく、企業と地域、子育てファミリーを結ぶさまざまな取り組みを実施しているだけあって読者とのネットワークがすばらしい。

第5位 1,068票



『link.』
Kitahama Lab
（香川県）

四国高松市の小さな港町・北浜町の魅力を伝えたいと店の取材をし、新たな発見や情報をあえて砕けた文章にして親しみやすく、記憶に残りやすいものにしたという、学生らしい柔軟な取り組みが、読んでいて楽しいコンテンツに仕上がっている。様々なアングルで撮った写真も躍動感があり、お店に携わる方々のパーソナルな話題が盛り込まれている事で、北浜町の魅力が楽しく伝わってくる。大学生たちの応援団パワーで、見事5位を獲得。

■ 読者投票部門(Web)



第1位 375票

『登米市シティプロモーションinstagram「トメのコメジルシ」』
／登米市（宮城県）



宮城県の北部に位置する登米市。2位の「登米市シティプロモーションサイト トメのコメジルシ」と連動して見事に1、2フッッシュに輝いた。稲刈り等の歳時記動画やお祭り、イベント等の動画を速報的に投稿しているSNS。「お役所らしくないところがいい」、「語り口が好き」という地元のファンが多く、今では「特派員制度」も導入。その結果、市民の皆さんからの投稿が増えているという。今後の仕上がりに期待する。

第2位 344票



『登米市シティプロモーションサイト「トメ
のコメジルシ」』
登米市
（宮城県）

登米市の暮らし、グルメ、遊ぶ、みどころ、登米に暮らす等のカテゴリの他にトメ検定や、地元の大学と協業して作成した「登米の子ジルシ」等の豊富なコンテンツで街の魅力を発信。

姉妹編であるInstagram「トメのコメジルシ」との住み分けもバランスがいい。

第3位 299票



『Eのさかな』
佐川印刷株式会社
（愛媛県）

日本のさかな文化を愛媛から発信するフリーマガジン「Eのさかな」のWEBサイト。愛媛県の代表的な魚を題材に、地域の水産業や食・暮らし・自然・文化などを取り上げ、地元新聞社と連携した県内の魚ニュースやイベント情報も発信している。WEB限定レシピ、魚の捌き方などが人気コンテンツ。愛媛県内外のファンに支えられて3位を獲得。

■ 読者投票部門(動画)



第1位 1,704票

『東京青梅観光PR動画「心躍る、春が来た」』

／青梅市（東京都）



青梅に住み、働き、活動するすべての人が、青梅市のロゴマークや色味を自由に使用することで、地域が一体となって青梅をプロモーションしていこうとする取組のコンテンツのひとつとしての動画である。このような地域住民や関係者を巻き込んだ地域プロモーションの結果として、動画部門でダントツ1位に輝いた。

第2位 859票



『PAINTING OUR DREAMS OF BIBAI 2023』
株式会社FoundingBase
(北海道)

内閣府地方創生推進事務局賞を受賞した美唄市のシティプロモーション推進事業の中で制作された動画。自分が暮らすこの地域の課題にどの様に向き合っていくのかを、若者たちが自分主語で語るシーンは印象的である。地域住民の皆さんがこのプロジェクトで様々な事を考え、行動して行く事であろう。見事、3位を獲得。

第3位 285票



『みやき町景観計画紹介映像』
みやき町
(佐賀県)

佐賀県みやき町は北部九州の中央に位置しており、なだらかな丘陵地帯と田園地帯を流れる川が筑後川に注いでいる、筑紫平野の穀倉地帯の一部として重要な役割を担っているエリアである。この地域の四季折々の美しさや、地域資源を美しい映像としっかりした構成力で表現した尺の長いクオリティの高い動画である。見事3位に輝いたこの動画を1人でも多くの市民に見てもらおう仕組み作りに期待する。

日本地域情報振興協会（NiCoA）とは？



全国約1200誌のタウン誌・フリーペーパーのプラットフォームを運営する一般社団法人です。

当協会は、次世代の地域情報コンテンツ流通の核としての機能を果たすため、地域の活性化に貢献している地域密着型出版社(メディア会社)の発展を支援し、地域経済の活性化に寄与するという基本理念のもとに設立いたしました。

NiCoAの理念

日本各地の地域情報を国内外に発信することで、地域経済活性化に貢献する。

日本全国にある地域情報誌や地域密着型メディアは、常にその地域のトレンドや最新情報にアンテナを張り、読者へ情報提供を行うことで、エリアの魅力再発見につなげ、経済効果を生み出す役割を担ってきました。今後は、1社、1媒体では成し得なかった、エリアをまたいだ情報コンテンツの流通やデジタル化を推進することで国内外への情報発信を実現し、より広範囲に経済活動を支援して、地域経済活性化に貢献してまいります。

活動内容

① 会員企業の経営支援

各媒体社に様々な施策の提案をすることで、売り上げアップに貢献します。

② 地域情報メディアの専門的研究

全国約1200誌の有料誌・フリーペーパーのネットワークを活かし、日本全国の地域情報誌を対象とした調査・研究を行い、媒体社のコンテンツ編纂力・情報発信力の向上に寄与します。

【協会概要】

名称： 一般社団法人日本地域情報振興協会[NiCoA]

設立： 2013年7月17日

代表理事： 神原 未綺

所在地： 〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル 3F

連絡先： TEL 03-3527-3259

FAX 03-3527-3156

URL: <https://nicoanet.jp/>

※本件に関するお問い合わせ先
awd_info@nicoanet.jp (広報担当)
TEL 03-3527-3259 (代表)
